

知性部

今年1年を通し、自分の考えを表現したり、対話することで相手の考えをより深く理解したりする学び合いを重視した学習を中心に進めてきました。保護者の皆様からは、多くのご協力をいただき、子どもたちに確かな学力を身に付ける取り組みを行うことができました。それぞれの取り組みについて報告いたします。

① 職員研修の取組

「自分の考えを表現し、互いに学び合う授業づくり」を研究主題として全職員が授業公開を行いました。考えの持たせ方や表現の仕方、友達との関わり合いの中から、深い学びにつなげる方法について理解を深めました。その結果、

・児童アンケート「自分の考えが伝わるように表現している」肯定的評価 93%

・「友達の考えを聞いて考えが広まったり、深まったりした」肯定的評価 97%

と肯定的評価が高い結果となりました。また、ICT 機器を有効に活用しながら学びにつなげることができました。

② 木戸ベーシックの徹底

学習規律を身に付けられるよう教室に掲示をしたり、各クラスで「がんばり週間」を実施したりすることで意識喚起を行いました。また、「学校で決められた学習用具をそろえていますか」の学校評価では、95%の肯定的評価が得られました。

③ 家庭学習習慣化に向けた取組

中学校区で家庭学習強調週間を11月に実施しました。強調週間前には学年便りで家庭学習の取組を紹介したり、教室に掲示したりと意識向上を図りました。結果、学校評価でも児童の86%、保護者の84%の肯定的評価を得られました。自主的に学習する意欲が高まってきたと考えられます。継続できるよう声掛けを続けていきます。

継続的な取り組みは、学力を身に付ける上でとても有効でした。今後もこの取り組みを継続していきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

(文責 研究プロジェクト主任 丸山希美子)

情操部

児童アンケート結果

「学級の課題や問題について話し合い、どのようにしたらよいかを考えています。」肯定的評価 94%

学級力アンケートの結果をもとに、各学級で課題や原因を明らかにし、解決方法を話し合う活動を行ってきました。「木戸ベーシック」と照らし合わせて、出来具合をチェックすると、より良い生活行動を考えて行動できる児童が増えてきています。また、上記の児童アンケートの結果からも意識の高まりが感じられました。

しかし、学校全体で見ると、挨拶や返事、廊下歩行、トイレの使い方などにおいてよい変容がまだまだ見られてきていません。

今後は、各学級の気付きが学校全体に広がるように委員会などと連携を図っていきたいと考えています。

(文責 情操プロジェクト主任 木村哲郎)

特別支援教育部

～多様な学びを保障する特別支援教育の推進～

今年度の特別支援教育の重点目標は「個別最適な学びと合理的配慮の拡充」です。保護者の皆様から、ご協力をいただきながら、子どもたち一人ひとりが自分の能力や個性を發揮できるような支援を行うことができました。

学校評価アンケート（職員）に次のような結果が出ました。

① 個別最適な学び

「特別な教育的ニーズのある子どもへのチェックリスト」の項目

肯定的評価「はい」「どちらかといえば、はい」・・・100%

② 合理的配慮の拡充

「特別支援教育に関する研修を通して、研修した内容を実際の授業や指導に生かした。」

肯定的評価「はい」「どちらかといえば、はい」・・・90%

どちらの項目も、肯定的な評価が90%以上の結果でした。

すべての学級において、子どもたち一人ひとりが自分の能力や個性を十分に發揮できるような支援の内容や手立てをお子さんと保護者の皆様と一緒に考えてきました。

学校全体で児童理解を深めたり、職員研修を行ったりしてきました。また、困り感を抱えているお子さんについて、どのような支援が有効か保護者の皆様と一緒に話し合いを行ってきました。

これからも、子どもたちが笑顔で学校生活を送ることができるように、学校全体で取り組んでいきたいと思えます。ご協力、ありがとうございました。

(文責 特別支援教育コーディネーター 西村 知子)